

令和5年度入学試験問題

外国語 英語

注意事項

試験開始の合図があるまで、この冊子を開けないこと。

1. この冊子の本文は1ページから13ページまである。印刷の不鮮明な部分、ページの脱落などがあった場合は申し出ること。
2. 答案用紙には、記入例のとおりに受験番号と氏名を記入すること。

記入例

受験 番号	1	2	3	4	5	氏名	大塚 茶織
----------	---	---	---	---	---	----	-------

3. 解答は、すべて答案用紙に記入すること。
4. 答案用紙の解答欄に、解答と関係のない文字、記号、符号などを記入しないこと。また、答案用紙の欄外の余白には、何も書かないこと。
5. この冊子は持ち帰ること。

1

次の英文を読み、設間に答えなさい。

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から掲載することが
できませんので、ご了承願います。

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から掲載することが
できませんので、ご了承願います。

(Adapted from Art Markman, "Culture Shapes Who We Should Help",
Psychology Today, 2022)

設問1 以下の(a)～(e)の文について、本文の内容に合致するものには○を、
合致しないものには×を、それぞれ解答欄に書きなさい。

- (a) Some theories suggest that humans are programmed to help family members more than other people.
- (b) Julia Marshall and colleagues conducted research with participants from various countries.
- (c) Two studies were conducted, only one of which included children and adults.
- (d) Participants watched videos of two scenarios where children needed help.
- (e) Participants had to decide whether a family member, a friend, and a stranger should help a child in need.

設問2 下線部(1)の内容を、本文に即して日本語で説明しなさい。

設問3 以下の(ア)～(エ)の文の中で、本文の内容を最も適切に要約しているものを1つ選び、解答欄に記号で書きなさい。

- (ア) Young children are programmed to help family more than friends and strangers, but this changes according to culture.
- (イ) Young children cannot tell the difference between family, friends, and strangers, but they still believe everyone should help each other.
- (ウ) Young children believe everyone should help each other, but they learn to behave like the adults in their culture.
- (エ) Young children learn to tell the difference between family and other people, but they are programmed to help family more.

2

次の英文を読み、設間に答えなさい。（*, **, ***を付した語には、注があります。）

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から掲載することが
できませんので、ご了承願います。

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から掲載することが
できませんので、ご了承願います。

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から掲載することが
できませんので、ご了承願います。

(Adapted from Helen Pilcher, *Small Inventions That Made a Big Difference*, 2021)

<注> ferment^{*}：発酵させる

turpentine^{**}：油絵等に使うテレピン油

Great Exhibition^{***}：万国大博覧会

設問1 下線部(1)を和訳しなさい。

設問2 (a) ~ (d) に入る最も適切な語を以下から選び、それぞれ解
答欄に書き入れなさい。

against, in, off, to

設問3 枠線内の4つの段落Ⓐ～Ⓓを最も適切な順序に並べ替え、解答欄に記号
で書きなさい。

設問4 なぜ下線部(2)のように言えるのか、本文に即して日本語で述べなさい。

3

次の英文を読み、設問に答えなさい。（*, **を付した語には、注があります。）

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から掲載することが
できませんので、ご了承願います。

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から掲載することが
できませんので、ご了承願います。

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から掲載することが
できませんので、ご了承願います。

(Adapted from James Surowiecki, *The Wisdom of Crowds: Why the Many Are Smarter Than the Few*, 2004)

<注> circumference * : 円周

autonomy ** : 自律性

設問1 ① [] の中の語句を最も適切な順序に並べ替え、解答欄に書きなさい。

設問2 下線部(1)を和訳しなさい。

設問3 段落 [6] の内容に合致しない文を以下の(ア)～(エ)から1つ選び、解答欄に記号で書きなさい。

- (ア) Being independent does not make people's judgment rational or fair.
- (イ) Errors in individual judgment can make the group's collective judgment worse if similar errors are made by others.
- (ウ) Independent individuals are likely to come up with new information as long as they are not biased.
- (エ) The smartest groups are made up of independent individuals who can make decisions on their own.

設問4 段落 [9] で示されている economists と sociologists の考え方の違いを本文に即して日本語で説明しなさい。

4

次の文章を読み、設問に英語で答えなさい。

観光地に行くと、写真を撮っている人がたくさんいる。自撮りの人もいるし、グループで通りかかった誰かにシャッターを押してもらうこともある。記念写真ではなく建物や風景ばかりを撮る人もいる（わたしはこのタイプ）。

たいていの場所は、行く前にすでにガイドブックやネット上の写真、テレビの映像で、そこを知っている。実際にその場に着くと、見た通りだと確認する。それから、自分が「本物」を見た証拠として自分が入った写真を撮り、SNSにアップする。

そのとき、意識しているのは、今実際に立っている場所、目の前の風景ではない。その写真を後で見る自分や、インターネットを見る誰かなのではないか。「証拠写真」を撮ることに懸命で、その場所で起こっていること、空気、音なんかを、楽しむことをつい忘れてしまっている。

浅草で自撮り棒の先をひたすら見上げて歩く人の姿が気になったのは、あの人は今どこにいるのだろう、と思ったからだ。日本の観光地を歩く自分の画像を見る、旅行から帰って自宅にいる自分自身を、カメラを通して見てているだけのような気がしたのだった。

景勝地や花のきれいな公園に行くと、立ち入り禁止の柵を堂々と越え、踏まないでくださいという注意書きを無視して木の根を踏んで、高価そうな特大望遠レンズを構える人もちょくちょく見かける。

そのとき、撮影者にとっては、ファインダーやモニターに映るものこそがすべてになってしまい、現実の世界は写真に切り取られるための材料に過ぎなくなるのだろう。

入ってはいけないところには入らないが、わたし自身も、街なかで写真を撮るときに画面に意識を集中してしまって、電柱にぶつかったり車に接触しそうになったりして、あまりのうかつさに驚いたことが何度かある。ファインダーの中で注意を向けていたもの以外の周囲の現実は、自分にとっては消えていたも同然だった。

写真もモニターに映る画像も、現実の世界のほんのわずかな部分をコピーした、

粒子や電気信号の集まりに過ぎないことを、撮影するときは忘れないでいたい。

自分は豊かな世界の片隅にいる小さな存在で、だからこそ、写真を撮るのだ。

(柴崎友香「写真のマナー」, 『惚れるマナー』, 2020 より)

設問 What is the author's conclusion and why does she think so? Explain in about 70 words.